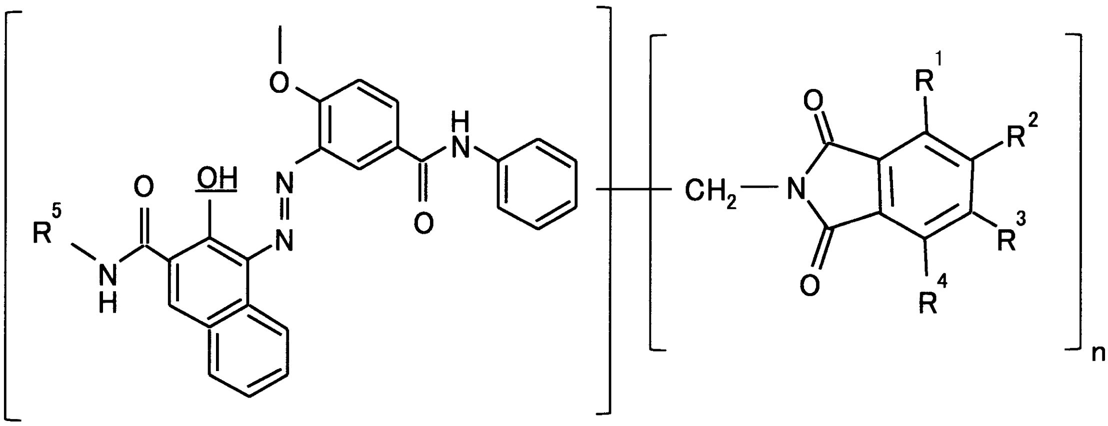
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第３区分
【発行日】令和4年3月15日(2022.3.15)

【公開番号】特開2020-147682(P2020-147682A)
【公開日】令和2年9月17日(2020.9.17)
【年通号数】公開・登録公報2020-038
【出願番号】特願2019-46523(P2019-46523)
【国際特許分類】
　Ｃ０９Ｄ　17/00(2006.01)
　Ｃ０９Ｂ　67/20(2006.01)
　Ｃ０９Ｂ　29/20(2006.01)
　Ｃ０９Ｄ201/00(2006.01)
　Ｃ０９Ｄ　 7/41(2018.01)
【ＦＩ】
　Ｃ０９Ｄ　17/00
　Ｃ０９Ｂ　67/20　　　　Ｋ
　Ｃ０９Ｂ　29/20　　　　Ｂ
　Ｃ０９Ｄ201/00
　Ｃ０９Ｄ　 7/41

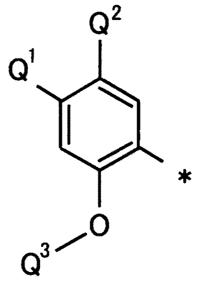
【手続補正書】
【提出日】令和4年3月4日(2022.3.4)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
アゾ顔料、下記式（１）で示される顔料誘導体、分散剤及び溶剤を含むアゾ顔料分散体。
【化１】



(1)

（式（１）中、Ｒ１～Ｒ４は、独立して水素原子又はハロゲン原子を示し、Ｒ５は、下記式（１－１）又は式（１－２）で表される基を示す。ｎは０より大きく２以下の実数である。）

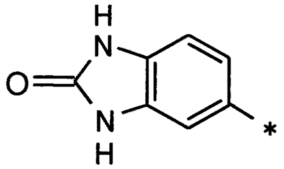
【化２】



(1-1)

（式（１－１）中、Ｑ１は水素原子、ハロゲン原子又はアルコキシ基を示し、Ｑ２は水素原子、ハロゲン原子又はアルコキシ基を示し、Ｑ３は炭素数１～４のアルキル基を示す。＊は結合手であることを示す。）

【化３】



(1-2)

（式（１－２）中、＊は結合手であることを示す。）

【手続補正２】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項２

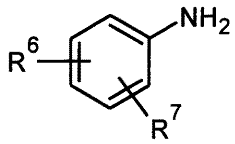
【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項２】

アゾ顔料が、下記式（２）で示されるベースと下記式（３）で示されるカップラーとの反応生成物を８０重量％以上（固形分基準）含む請求項１記載のアゾ顔料分散体。

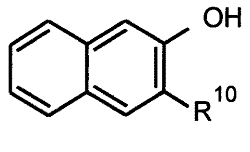
【化４】



(2)

（式（２）中、Ｒ6はＲ８－ＮＨ－Ｃ（＝Ｏ）－で表される基、Ｒ７はハロゲン原子又はＲ９Ｏ－で表される基を示す。Ｒ８は水素原子又はフェニル基（－C_6H_5）を示す。Ｒ９は炭素数１～４のアルキル基を示す。）

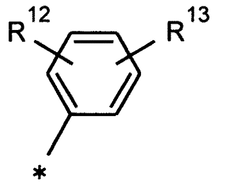
【化５】



(3)

（式（３）中、Ｒ１０は、水素原子又はＲ１１－ＮＨ－Ｃ（＝Ｏ）－で表される基を示す。Ｒ１１は、下記式（３－１）で表される基を示す。）

【化６】



(3-1)

（式（３－１）中、Ｒ１２はＲ１４－ＮＨ－Ｃ（＝Ｏ）－又はＲ１４－Ｃ（＝Ｏ）－ＮＨ－又はCH_3O－で表される基、Ｒ１３は水素原子、ハロゲン原子又はＲ１５Ｏ－で表される基を示す。Ｒ１４は水素原子又はフェニル基（－C_6H_5）を示す。Ｒ１５は炭素数１～４のアルキル基を示す。＊は結合手であることを示す。）

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

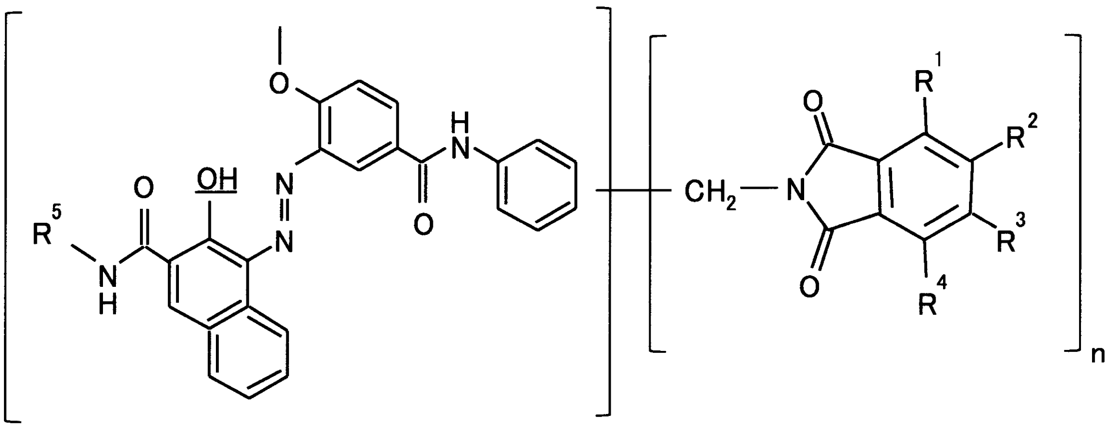
【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

【化１】



(1)

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００２４

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００２４】

（式（３－１）中、Ｒ１２はＲ１４－ＮＨ－Ｃ（＝Ｏ）－又はＲ１４－Ｃ（＝Ｏ）－ＮＨ－又はCH_3O－で表される基、Ｒ１３は水素原子、ハロゲン原子又はＲ１５Ｏ－で表される基を示す。Ｒ１４は水素原子又はフェニル基（－C_6H_5）を示す。Ｒ１５は炭素数１～４のアルキル基を示す。＊は結合手であることを示す。）

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

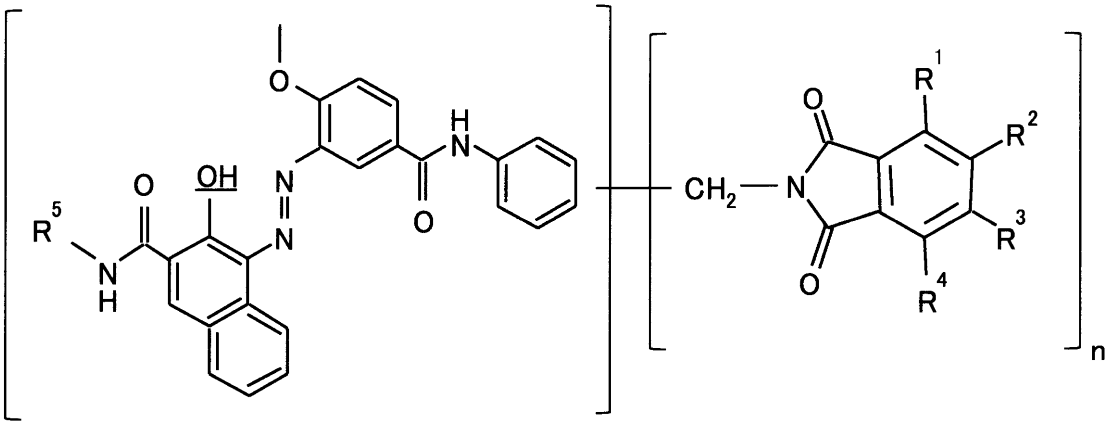
【補正対象項目名】００３７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００３７】

【化１０】



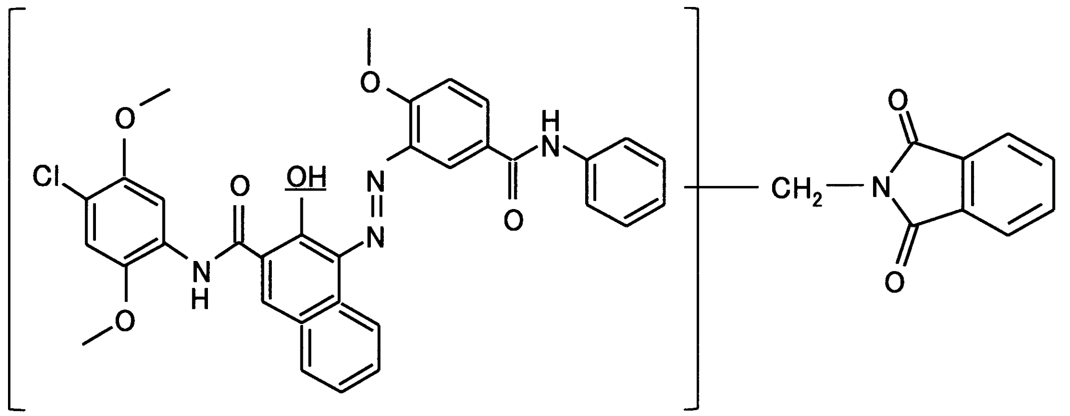
(1)

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６１】
（式（３－１）中、Ｒ１２はＲ１４－ＮＨ－Ｃ（＝Ｏ）－又はＲ１４－Ｃ（＝Ｏ）－ＮＨ－又はＣＨ$_3$Ｏ－で表される基、Ｒ１３は水素原子、ハロゲン原子又はＲ１５Ｏ－で表される基を示す。Ｒ１４は水素原子又はフェニル基（－Ｃ$_6$Ｈ$_5$）を示す。Ｒ１５は炭素数１～４のアルキル基を示す。＊は結合手であることを示す。）
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６３】
式（３）中、Ｒ１０は、水素原子又はＲ１１－ＮＨ－Ｃ（＝Ｏ）－で表される基であればよい。Ｒ１１は、前記式（３－１）で示される官能基であればよく、式（３－１）中Ｒ１２とＲ１３の結合位置は特に限定はない。Ｒ１２は、ＮＨ$_2$－Ｃ（＝Ｏ）－若しくはＣ$_6$Ｈ$_5$－ＮＨ－Ｃ（＝Ｏ）－で表される基、又は、Ｈ－Ｃ（＝Ｏ）－ＮＨ－若しくはＣ$_6$Ｈ$_5$－Ｃ（＝Ｏ）－ＮＨ－で表される基、又は、ＣＨ$_3$Ｏ－であればよい。Ｒ１３は、ハロゲン原子又はＲ１５Ｏ－で表される基であればよい。ハロゲン原子としては、塩素原子、臭素原子等何れでもよい。Ｒ１５は、炭素数１～４のアルキル基であればよく、メチル基、エチル基、プロピル基又はブチル基であればよい。プロピル基及びブチル基は直鎖状でも分岐状でもよい。このようなカップラーとしては、例えば、Ｎ－（５－クロロ－２－メトキシフェニル）－３－ヒドロキシ－２－ナフタレンカルボキシアミド、βナフトール等が挙げられる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３１】
（製造例４）
Ｎ－（５－クロロ－２－メトキシフェニル）－３－ヒドロキシ－２－ナフタレンカルボキ

シアミド４８重量部用いるのに替えて、Ｎ－（５－クロロ－２，４－ジメトキシフェニル）－３－ヒドロキシ－２－ナフタレンカルボキシアミドを５２重量部用いた以外は、製造例１と同様の操作を行って、顔料誘導体４を含む粉砕物を得た。製造例１の場合と同様にして顔料誘導体４の化学構造の同定を行ったところ、ｍ／ｚ＝７７０に分子イオンピークが観測された。この値は、式（１）においてＲ１～Ｒ４が水素原子、Ｒ５が式（１－１－２）で表される基に相当するモノアイソトピック質量と一致する。

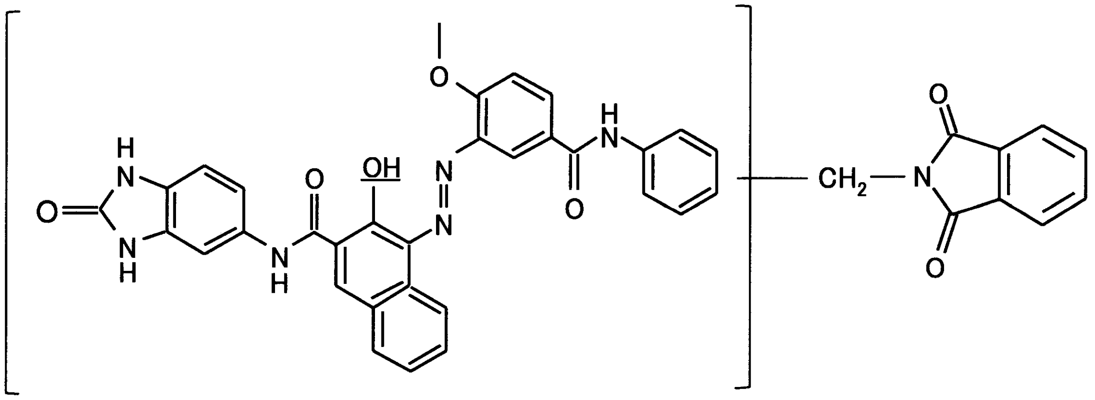
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３２】
以上のようにして、式（１）においてＲ１～Ｒ４が水素原子、Ｒ５が式（１－１－２）で表される基で、ｎが１．０である顔料誘導体４を得た。

【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３４】
【化２１】



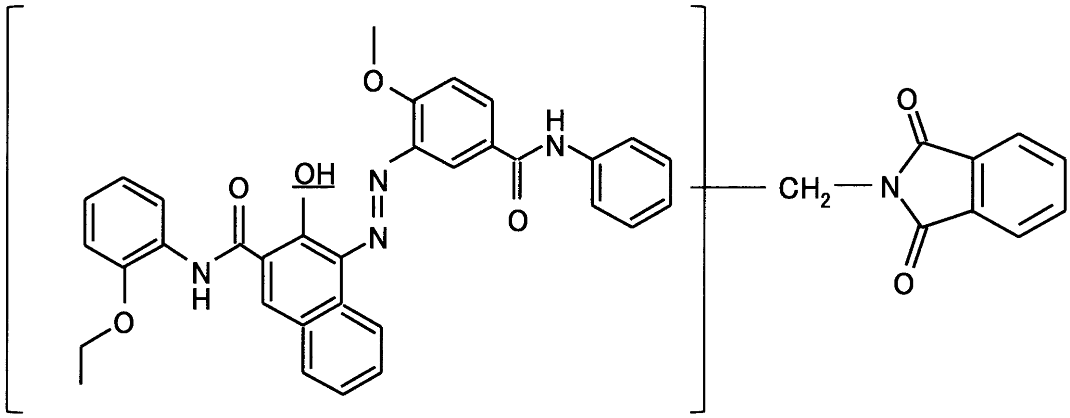
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３６】

【化２２】



(7)

【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０１３８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０１３８】
【化２３】



(8)